

2024年度 卒業生アンケート調査結果概要

(調査対象：就職後2年目を迎えた3期生)

実施期間：2024年7-8月

教育支援・教学IR室運営委員会

1. 回答者概要

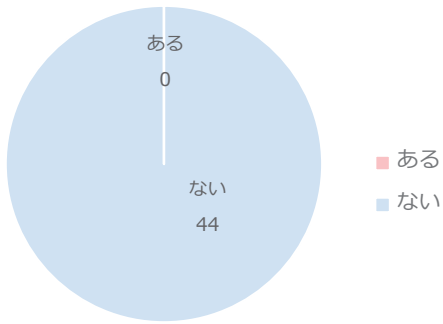
調査対象 : R4年度卒業の3期生 98名

回答数 : 44名 / 98名 (回答率 : 45%)

調査方法 : Web調査 (Forms)

2.アンケート回答内容

Q1 .転職・離職した経験はありますか？



Q2-1.転職・離職の時期はいつですか。
卒業後からの期間でお答えください。

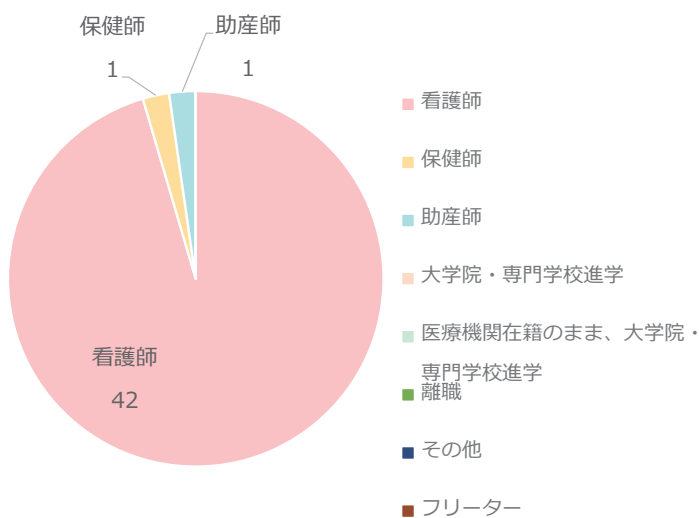
対象者なし

Q2-2.転職・離職した理由をお答えください。（複数選択可）

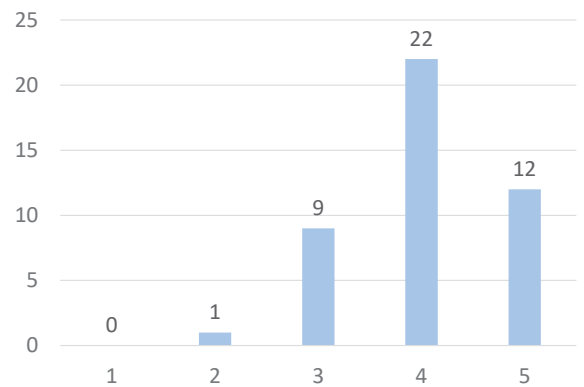
対象者なし

2.アンケート回答内容

Q3. 現在の就業状況を教えてください。



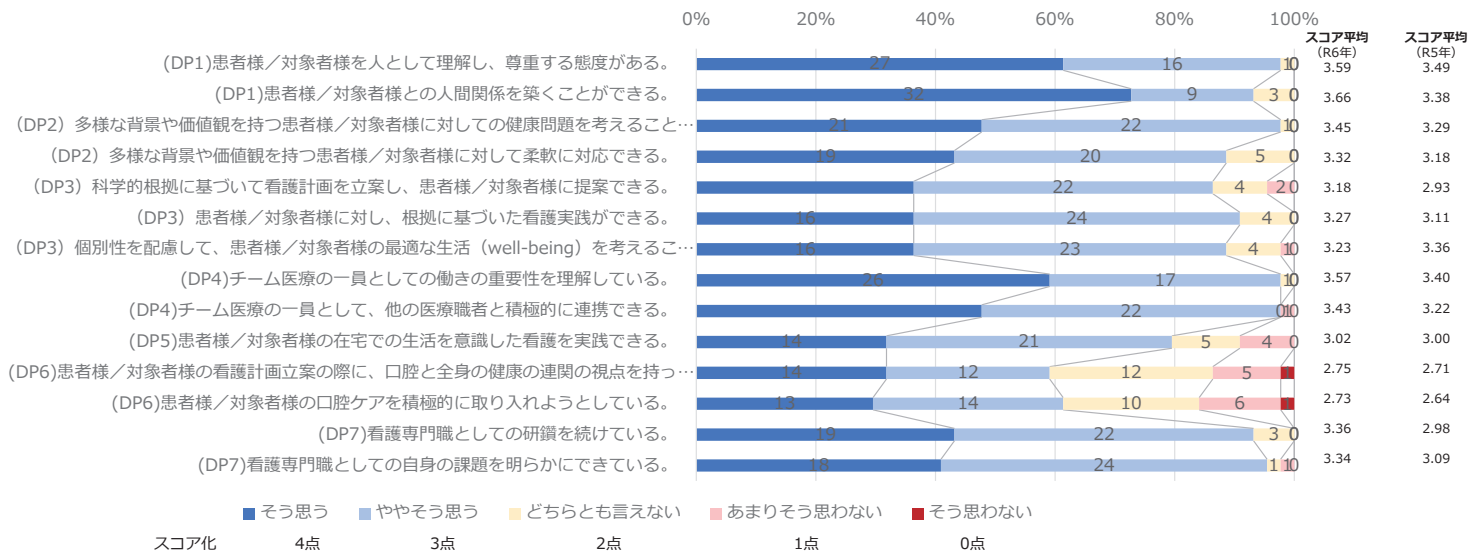
Q4. 現在の就職先への満足度を教えてください。
(1～5 5段階評価)



平均 4.02
(昨年度平均 3.67)

2.アンケート回答内容

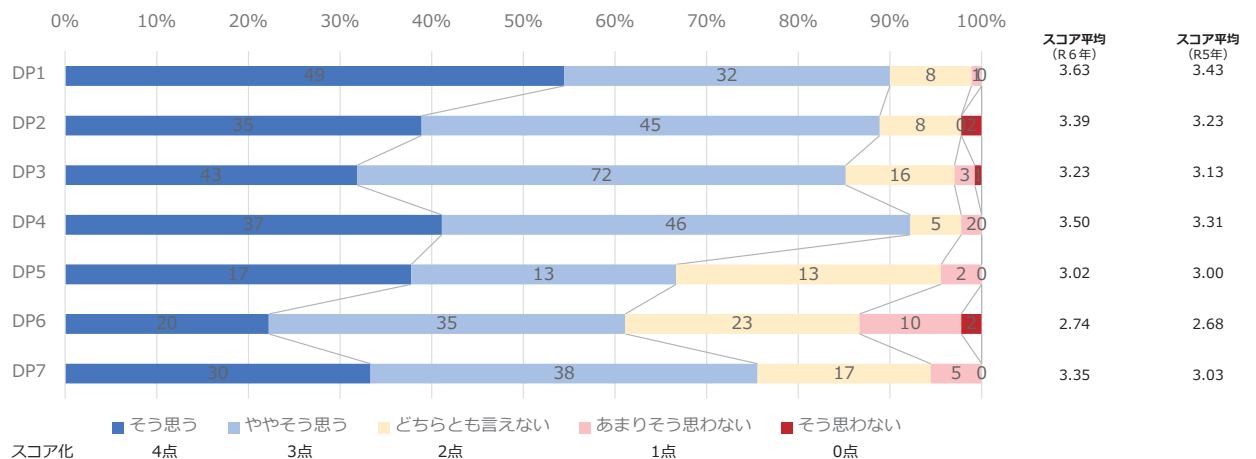
Q5-1.以下に示す能力が今身に付いていると思いますか。



ディプロマ・ポリシー①生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる
 ディプロマ・ポリシー②多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる
 ディプロマ・ポリシー③科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる
 ディプロマ・ポリシー④保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる
 ディプロマ・ポリシー⑤在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる
 ディプロマ・ポリシー⑥対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる
 ディプロマ・ポリシー⑦看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる

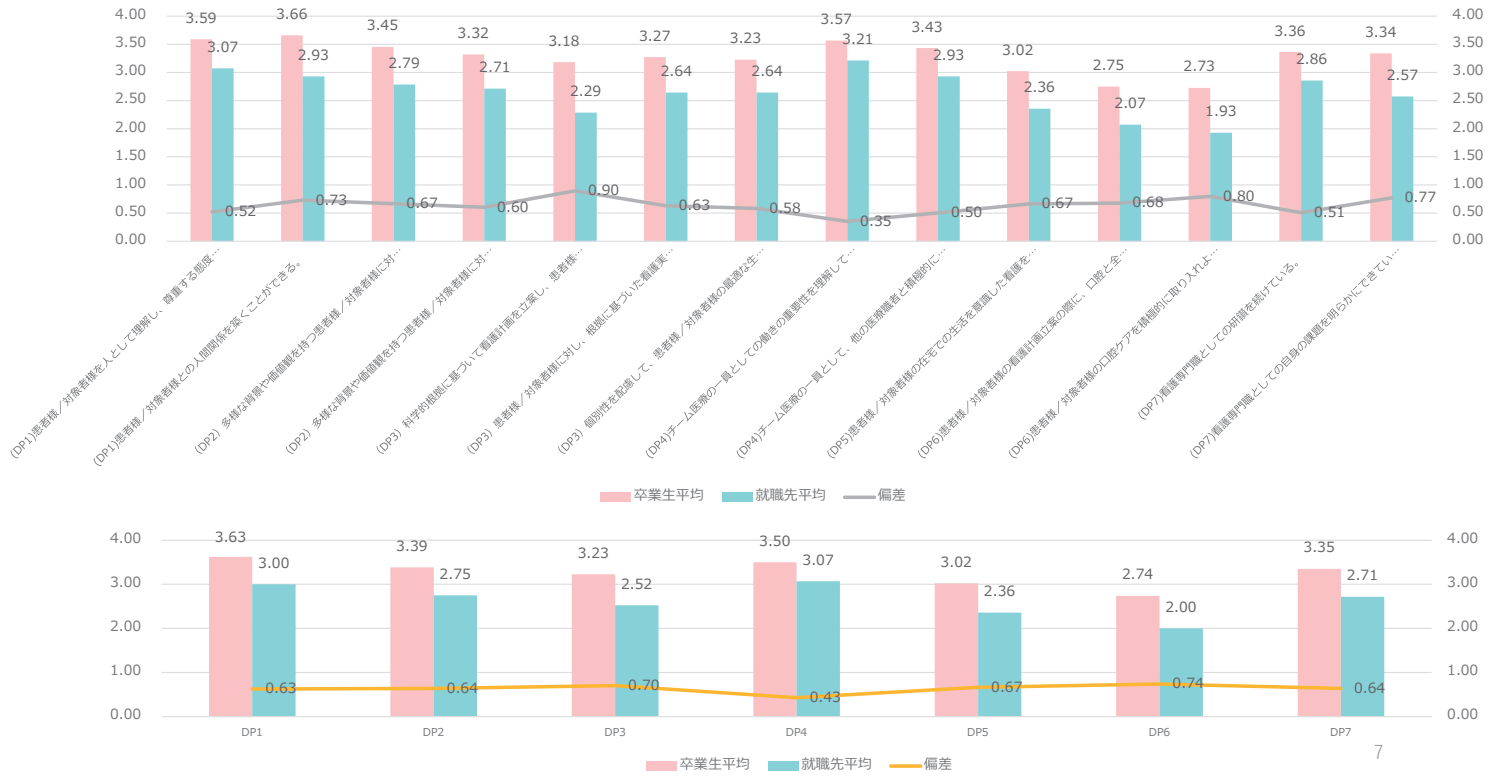
2.アンケート回答内容

Q5-2.以下に示す能力が今身に付いていると思いますか。(DP合算値)



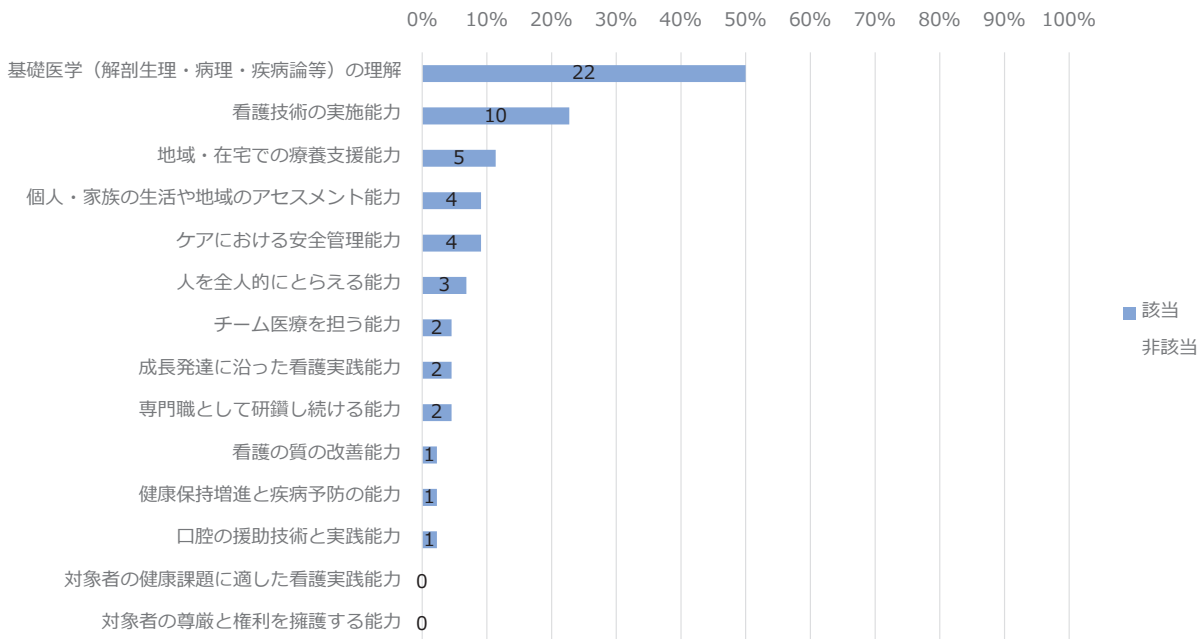
ディプロマ・ポリシー①生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる
 ディプロマ・ポリシー②多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる
 ディプロマ・ポリシー③科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる
 ディプロマ・ポリシー④保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる
 ディプロマ・ポリシー⑤在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる
 ディプロマ・ポリシー⑥対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる
 ディプロマ・ポリシー⑦看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる

補足資料 卒業生評価と就職先評価の差



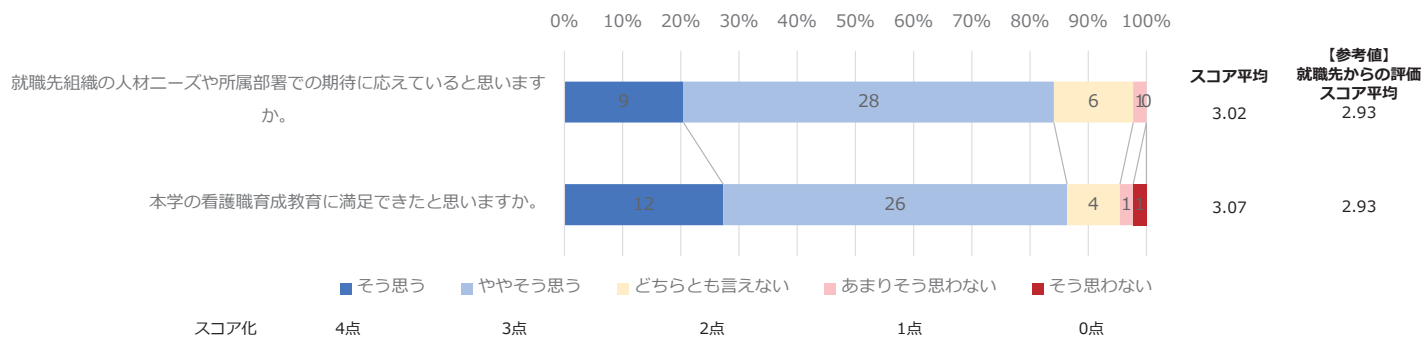
2. アンケート回答内容

Q6. 本学の教育で足りなかったと思われるものをご回答ください。就職後の実感として回答ください。
(複数回答可)



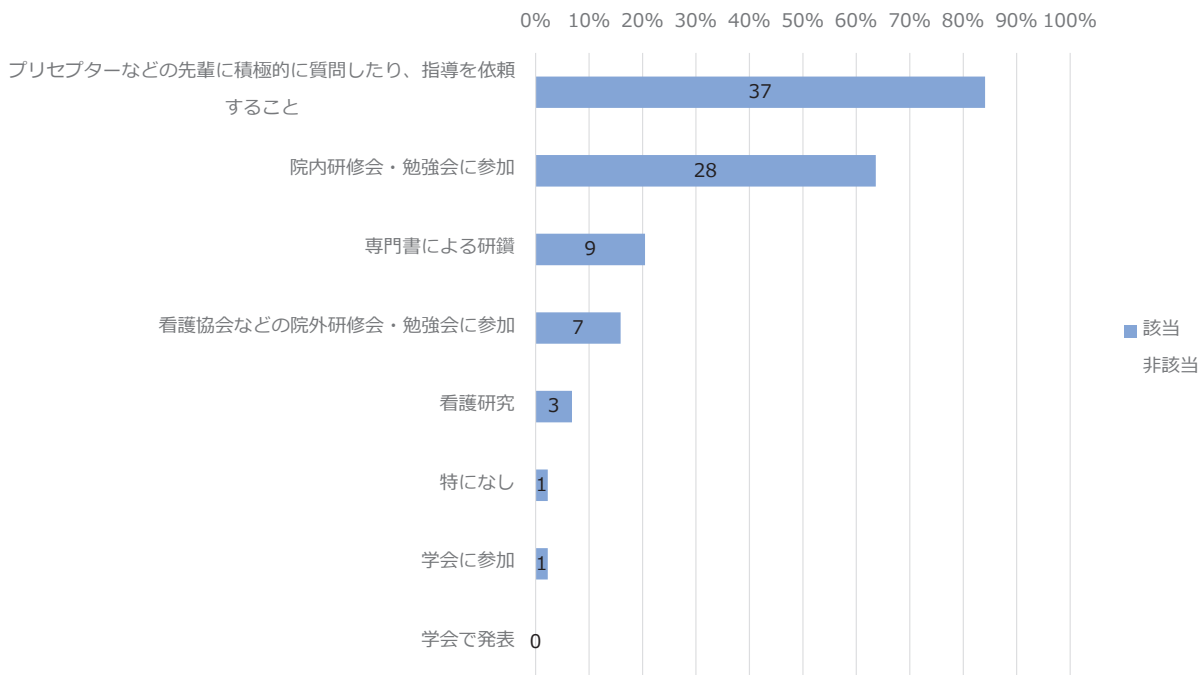
2.アンケート回答内容

Q7.自分の能力や意識についてお聞きします。



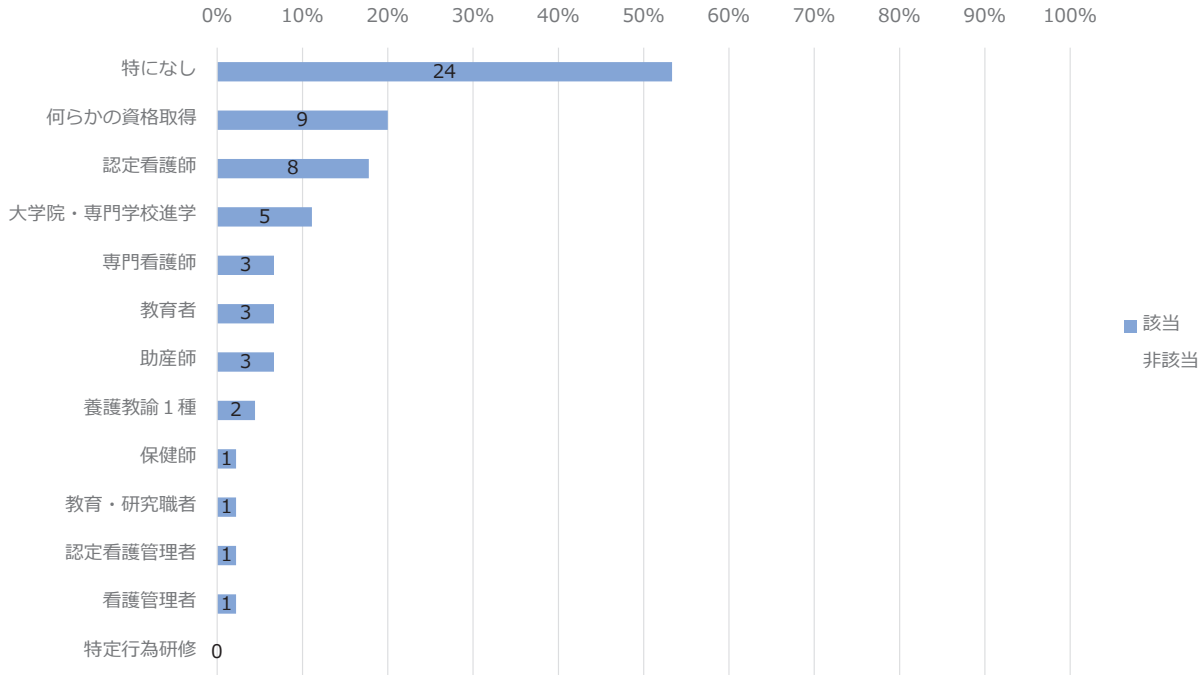
2.アンケート回答内容

Q8.自己の成長のために実践していることについて回答ください。（複数回答可）



2.アンケート回答内容

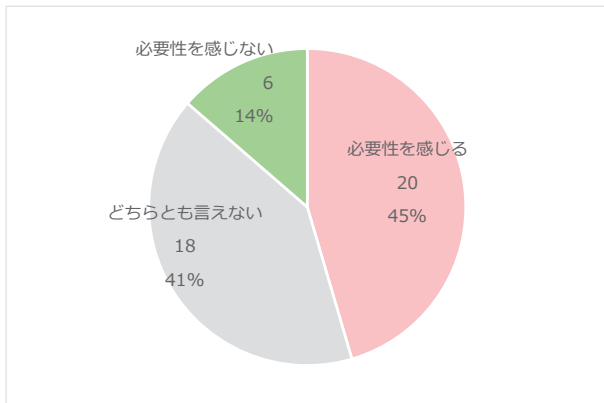
Q9.今後（5-10年後）のキャリアアップに向けて、現時点で考えているものや予定しているものがあれば、該当するものを回答ください。（複数回答可）



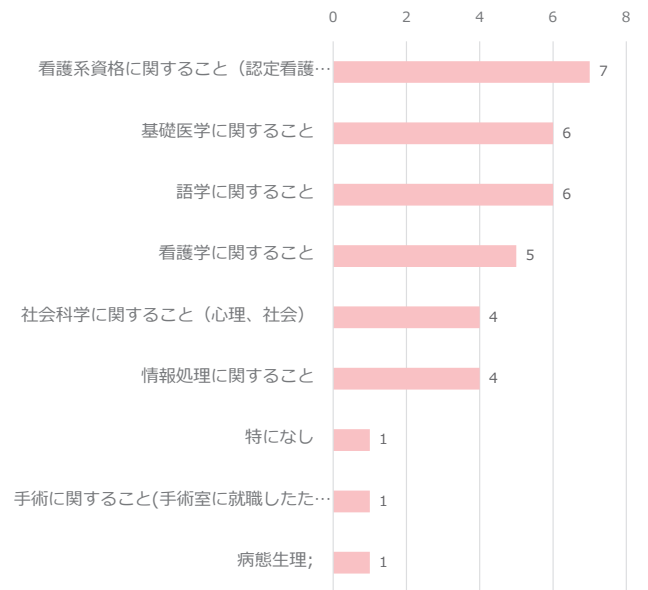
2.アンケート回答内容

Q10-1.大学を卒業し社会人として働いていく中で、「社会人の学びなおし*」の必要性を感じますか？

*社会人になってから自分の仕事に関する専門的な知識やスキルを学ぶこと



Q10-2.必要性を感じると答えた方に質問します。どのようなことを学びなおしたいと思いますか。



2024年度卒業生アンケート調査結果分析

教育支援・教学IR室 室長 荒川満枝

実施期間：2024年7-8月

調査対象：就職後2年目を迎えた3期生 98名

回答数：44名 / 98名 (回答率：45%)

調査方法：Web調査 (Forms)

Q1. 転職・離職した経験はありますか？

Q2. 転職・離職の時期はいつですか転職・離職した理由をお答えください。(複数選択可)。

転職・離職の経験者はいなかった。(昨年度は13% (6名) が転職や離職の経験があり、うち2名は卒後6か月以内、2名は1年以内、2名が1年半以内に転職または離職していた。)

Q3. 現在の就業状況を教えてください。

95% (42名) が看護師として、3% (1名) が保健師として、3% (1名) が助産師として就業中であった。

Q4. 現在の就職先への満足度 (1-5段階評価) について回答ください。

3% (1名) の卒業生が「どちらかと言えば不満足」と回答していたが、77% (34名) の卒業生が「満足・どちらかと言えば満足」と肯定的な回答しており、昨年度の肯定回答56%より大幅に向上しており、離職率の低さからも満足度が高いと思われる。どちらとも言えないと合わせると98%が大きな問題はなく就業していることがうかがえる。

13

Q5-1, 2, 補足資料 福岡看護大学のディプロマ・ポリシーは、身につけていたと思いますか。

7つのディプロマ・ポリシーへの達成度の自己評価は4スコア中平均2.74~3.63 (62%~91%)であった。

・DP1~7全てのスコア平均が、R5年 (2期生) の結果より高かった。

・DP1「生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる」DP2「多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる」DP4「保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる」は90%前後の卒業生が肯定的に答えていて、スコアが高くなった。

・DP3「科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる」は約80%、DP7「看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる」は約75%が肯定的に答えていた。

・DP5「在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる」やDP6「対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる」は低い値で、現場へ出て2年目の卒業生にとっては、十分な能力を有しているとは言にくい高度な目標となっていると考えられた。

・一方、就職先アンケートによる他者評価では、2.00~3.07 (25%~88%)と、すべてのDPで低く、0.43~0.74ポイント下回っていた。その差は、特にDP6「対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる」で最も大きかった (-0.74スコア)。

・自己評価と他者評価とのギャップについてはよくあることではあるが、今後DPの適切性について判断する材料としていくべきであると考えられる。

14

Q6. 本学の教育で足りなかったと思われるものをご回答ください（複数回答可）。

本設問の選択肢は、コアコンピテンシーの項目を統合し、さらにカリキュラム内容とも照らし合わせて作成した。「基礎医学（解剖整理・病理・疾病論等）の理解」が最も多く半数（22名）の卒業生が回答していた。次いで「看護技術の実施能力」が23%（10名）、「地域・在宅での療養支援能力」が11%（5名）、「個人・家族の生活や地域のアセスメント能力」「ケアにおける安全管理能力」が9%（4名）、「人を全人的に捉える力の能力」が7%（3名）の順であった。

Q7. 自分の能力や意識についてお聞きします。

「就職先組織の人材ニーズや所属部署での期待に応えていると思いますか。」についてのスコアは、3.02/4.0で、病院による他者評価（就職先アンケート）2.93とはほぼ同等であり乖離が少なくなった。昨年の2期生2.98のスコアと比較するとほぼ同等で、昨年同様「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」とする回答16%（7名）もあり、まだ就職後2年目で自分の働き方や立ち位置を量りかねている様子もうかがえる。

「本学の看護職育成教育に満足できたと思いますか。」に対しては、「そう思う・ややそう思う」が86%スコア3.07/4.0と、昨年の2期生91.0%スコア3.13/4.0よりやや下回る結果となったが、昨年同様高い評価で自己肯定感が高い様子があった。

Q8. 自己の成長のために実践していることについて回答ください。（複数回答可）

「プリセプターなどの先輩に積極的に質問したり、指導を依頼する」は84%（37名）が回答し、昨年度より約20%向上しており、就職先で良好な人間関係が築けていると想定される。「院内研修会・勉強会に参加」は64%（28名）で昨年とほぼ同等の結果であった。

Q9. 今後（5-10年後）のキャリアアップに向けて、現時点で考えているものや予定しているものがあれば、該当するものを回答ください。（複数回答可）

「特になし」の回答が最も多く55%（24名）、次いで「何らかの資格取得」20%（9名）、「認定看護師」18%（8名）となっており、キャリアアップへの意識が昨年よりやや低い結果であった。やはりまだ就職後2年目では余裕がなく、将来を考える状況にないのかもしれないが、在学中にもう少し将来のキャリアプランや選択肢を大学側が示しておくことも必要ではないかと思われる。